

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第127回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

「食べる」の見える化による社会貢献を目指して
～喫食時の感覚の数値化ならびに数値シミュレーションのご紹介～

神谷 哲

長瀬産業株式会社 NVC室

東北大学大学院農学研究科 放射光生命農学センター 教授

令和4年2月24日（木） 17:30～18:30

オンライン（Zoom）開催

喫食時に人が感じる様々な情報は数値化することが困難であり、メーカーの商品開発の現場では人の官能による評価が一般的である。高齢人口の増加や、多様な個性が過ごしやすく生活する社会を目指す上で、それぞれの人や喫食のシーンに適した食品開発のためには、人の喫食時の感覚や感性の数値化が必要であり、その数値から口腔、咽頭内で起きている現象や摂食・嚥下時の食塊の移送に及ぼす支配因子を推定することは重要である。本講演では、人の喫食時の感覚や感性を数値化するために開発した、人の喫食を模擬した実験装置（F-bolog® Analyzer、ORAL-MAPS®）の実験結果と官能評価の相関、ならびにコンピューターを利用した嚥下シミュレーション（Swallow Vision®:武蔵野日赤:道脇先生と共同開発）の概要と出力される情報（速度、せん断速度、粘度、力、食塊の移送の様子、誤嚥模擬）について情報提供します。

最後に今後開発予定の咀嚼模擬装置とコンピュータシミュレーションについてお話しますので、アドバイスやコメントをいただくと幸いです。

第127回モデレーター 小山 重人（東北大学病院 嚥下治療センター）